

支える会通信 特別号

調布を耕す会を支える会

事務局/〒182-0024 東京都調布市布田 3-20-1

TEL 042-486-1022 & FAX 042-486-0232

今回はカフェで働いている小林さんがインドでの体験記を支える会通信に送って下さいました。本来なら4月号に載せて頂く予定でしたが 編集サイドのミスから遅れてしまいました。申し訳ありません。

小林さんがインドでどんな体験をしたのか...たのしみです。



こんにちは。カフェ大好きで土・日曜日にアルバイトをさせて頂いております小林直弘と申します。今年の2月18日から3月18日までの一か月間、インドへ旅行して参りました。インドで撮影した写真は4月に友人の「そら」を映した写真と共にカフェ大好きで展示させていただきました。今回は展示では触れられていないインド体験談を語ることを目的に記事を書かせて頂きます。

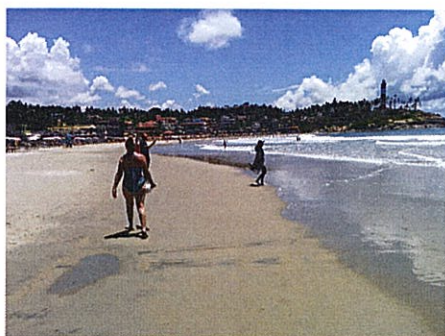
早速ですが、皆さんは「インド」旅行と聞いて、どのような旅を連想されるでしょうか？安い。汚い。危ない。これに尽きるのではとおもいます。例えば、名画「インディージョーンズ」シリーズでもインド人はいつも悪役です。実際、この印象は外れてはいません。私はこれまで北部を中心にインドへ2回行きましたが、どの旅行も安い・汚い・危ない、の三語で要約可能でした。

しかし、今回のインド旅行は違いました。今回私が訪れた南インドでは、「医療」と「教育」の水準が高く、街には「規律」がありました。北部の旅で頻繁に目にするゴミの山は見当たらず、綺麗な海岸線が広がっていました。ビーチはバカンスを楽しむイギリス人と、いかにもお金持ちのインド人とで溢れていたことが象徴的です。

ここで南インドでの思い出をすべて書くわけにはいきませんので、「マドライ」という町にあ



「北インドのゴミ山」筆者撮影



「南インドのビーチ」筆者撮影

る女子大学に4日間滞在したときの体験を書こうと思います。まず、この大学へは、ファミリーメンバーでもある普後さんのご縁を借り、滞在できることになりました。ありがとうございます。この女子大では、文化交流や街探検など様々なことをさせて頂きましたが、その中でも一番印象に残っているのは、養護学校へ訪問した時の先生とのお話です。この学校は知性と精神に軽度の障害を持つ生徒が通う養護中学校で、到着するとすぐに、元気な生徒たちに私は囲まれました。その後「tea or coffee?」「what color you like?」など、本当に他愛もない問答を繰り返して遊んでいました。少し経つと個室に呼ばれ、先生と「障害」をどのように捉えるべきか?という少々突っ込んだ話をしました。先生によると、インドでは「handicap」とはいわずに、「different ability」という言葉で「障害」を表現するそうです。「different ability」とは直訳で「異なる能力」となります。さらに続けて、「我々は彼らが成長することに目をそらしてはいけないし、また、それを否定してもいけない。」と語っていました。その時の先生の優しいまなざしは今でも鮮明に思い返すことができます。

スピノザという思想家は「規定は否定である。」という言葉を残しています。私は、南インドへ行くまで、インドは安いけど汚くて危ないところだと思っていました。これはインドという国を安易に規定してしまい、結果的にインドの違う側面を否定していたこととなります。安易に規定しないためには、粘り強く足を運ぶこと、つまり「持続」が重要だと感じました。これは、「国」へのイメージだけではなく、「人」にも、そして教育や福祉という分野においては、特に重要なことなのではないでしょうか。すぐに決めつけるのではなく、気を長くして可能性を見つめるまなざしが大切なのだと思いました。



「養護学校の生徒たち」筆者撮影